

作業学習（グループ作業）指導案（略案）

平成 25 年 2 月 1 日（金） 2 校時
 高等部 B, C グループ 男子 6 人 女子 6 人 計 12 人
 場所 高等部 3 年 教室
 指導者 今村広海 (CT) 宮内文久 (ST1) 飯母有沙子 (ST2)

1 単元 「めぐいを作ろう」

2 本時の実際 (41/52)

(1) 全体目標

- ア 出来高目標を意識し、友達と協力して時間いっぱい作業に取り組むことができる。
- イ 補助具の効率的で安全な使い方や、良品作りのポイントを理解し、各作業工程における良品を作る技能を身に付けることができる。

(2) 個人目標

| 生徒 | 個別の指導計画の目標 | 個人目標 |
|--------------|---|---|
| A (1年, 男) | 自分の役割を理解し、自ら進んで作業に取り組むことができる。 | ア 出来高目標を意識し、状況によってはくぎ差しや不良品の解体作業をするなどして、作業を進めることができる。 イ 検品のポイントを確認しながら作業に取り組むことができる。 |
| B (1年, 男) | 自分の役割を理解し、時間いっぱい作業に取り組むことができる。 | ア 開始時間を守ったり作業工程を主体的に選んだりして、意欲的に作業に取り組むことができる。 イ その工程の良品を作るためのポイントを確認しながら作業を行うことができる。 |
| C (1年, 女) | 自分の役割を理解し、自ら進んで作業に取り組むことができる。 | ア 出来高目標やその日の人数を考えて作業工程を選択し、作業に取り組むことができる。 イ 自分の作業に集中し、教師のアドバイスを受け入れ、効率よく作業をすることができる。 |
| D (3年, 男) | 自分の役割が分かり、決まりを守って友達と一緒に作業に取り組むことができる。 | ア 始まりや終わりの時刻を意識して作業に取り組むことができる。 イ 良品のポイントを自分で確認しながら、安全に作業を行うことができる。 |
| E (3年, 男) | 自分の役割を理解し、時間いっぱい作業に取り組むことができる。 | ア 自分で選んだ作業に、休まずに集中して取り組むことができる。 イ 補助具を効率的に使用し、良品のポイントを意識しながら作業を行うことができる。 |
| F (3年, 女) | 担当の仕事の準備や片付けに確実に取り組むとともに、計画に沿って複数の作業種に取り組むことができる。 | ア 出来高目標を意識して、自分で選んだ作業工程に時間いっぱい取り組むことができる。 イ 良品のポイントを確認し、効率的に作業を行うことができる。 |

(3) 指導及び支援に当たって

学習活動の概要

めぐい作業は、作業週間や校内での現場実習で行われている。数工程ある作業だが、生徒たちにとっては、慣れている作業であるため、出来高目標を考慮したり自分の作業能力に合った工程を選択したりすることで、意欲的に作業に取り組めるようにしたい。

教材・教具とのかかわりについて

進行表を使ってミーティングをスムーズに進行したり、各作業工程にあった補助具を安全に効率良く使用することで、出来高目標を達成したりできるようにする。

友達・教師とのかかわりについて

ミーティングでは、生徒が中心になって進めることで、教師任せではなく主体的に話し合いができるようにする。材料の受け渡し等のやりとりが必要な場面や環境にし、生徒同士が関わり合う機会を設定する。

自分とのかかわりについて

毎時間評価シートを準備し、目標や課題を意識して意欲的に作業ができるようにする。また、教師との反省では、自分のできたことや課題に気付くことができるようにする。

授業環境の工夫

生徒間のやり取りと作業効率、動線に配慮し、各作業工程順に反時計回りに設定する。

(4) 実際

| 過程 | 主な学習活動 | 指導及び支援上の留意点 | 資料・準備 |
|-------------|--|--|--|
| 導入 (5分) | 1 始めの挨拶をする。 2 先生の話聞く。 | <ul style="list-style-type: none"> 大きな声で、ゆっくりはっきりと挨拶するように、言葉掛けをする。 めぐいの役割を実際に使われている写真を提示して、作業への意欲を高められるようにする。 | |
| 展開 (40分) | 3 ミーティングをする。 (1) めあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">時間いっぱい丁寧に作業をしよう。</div> (2) 出来高目標を決める。 (3) 作業時間を確認する。 (4) 作業工程を決める。 4 めぐいを作る。 下記の(1)～(5)の作業を並行して行う。 (1) PPバンドを同じ長さ切る。 (2) ビニルテープを一定の長さに切る。 (3) 切ったPPバンドを曲げて両端をビニルテープで巻き付ける。 (4) (3)で作った物にくぎを入れ、めぐいを完成する。 (5) 完成しためぐいを検品して数え、一定量ずつ箱詰めをする。 | <ul style="list-style-type: none"> Aには進行表を準備し、ミーティングをスムーズに進めることができるようにする。 めあては開始前から黒板に書いておき、事前に読めるようにしておく。 STは、めあての発表者に注目できるように、言葉掛けやゼスチャーで支援を行う。 出来高目標を決めるときは、作業時間や欠席者、これまでの出来高などを参考にし決定できるようにする。 Dには、開始や終了時刻、作業時間を黒板に提示し、見通しがもてるようにする。 作業工程選択の際は、それぞれの工程の写真カードや人数を表し、選ぶためのヒントになるようにする。 B, Cには、出来高目標や他の生徒の選択も意識できるように言葉掛けを行い、どの工程を選択するかを考えることができるようにする。 Eが作業に集中できないときは、テープ切りに担当工程の変更を促したり、Eの興味がある道具を示したりして、意欲的に取り組めるようにする。 Aには、作業全体を見て、次は何をすればいいかを考えさせるような言葉掛けを行う。 PPバンド切りでは、バンドを手で押さえながら切ることで、長さをそろえられるようにする。 テープ切りでは、補助具をしっかり固定することで、テープの長さをそろえられるようにする。また、かごの印に合わせてテープを貼るようにし、少しでも多く切ることができるようにする。 テープ巻きでは、良品の見本を提示し、正しい姿勢をとって両手を使うことで、テープをずらさずに適切に巻くことができるようにする。 くぎ差しでは、軍手をはめ安全に良品を作ることができるようにする。また、補助具を使うことで、バンドを強く引っ張り、良品ができるようにする。生徒B, Cが担当する場合は、出来上がりの確認をするように言葉掛けをする。 数え・梱包では、チェック表を見て、バンドの長さや傷の有無、くぎがしっかり差されているかの確認ができるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> 進行表 前時の評価シート 写真カード 名前カード 補助具 PPバンド (梱包用ポリプロピレンバンド) ビニル袋 (大) ビニルテープ かご はさみ かご 切られたテープ チェック表 くぎ 軍手 チェック表 段ボール ガムテープ 軍手 |
| 終末 (5分) | 5 本時を振り返る。 6 終わりの挨拶をする。 | <ul style="list-style-type: none"> 評価シートを基にして、教師とともに反省することで、自分のできたことや課題を認識できるようにする。 感想を出し合ったり、次時の学習内容を聞いたりすることで、次時への意欲や期待感を高めることができるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> 評価シート |

(5) 評価

- ア 出来高目標を意識し、友達と協力して時間いっぱい作業に取り組むことができたか。
- イ 補助具の効率的で安全な使い方や、良品作りのポイントを理解し、各作業工程における良品を作る技能を身に付けることができたか。